

あいさつ運動の好事例

吉備中央町立大和小学校

(児童数 62名 教員数 13名)

たすきをかけて あいさつ回り！

～ 児童会を中心とした あいさつ運動の取組 ～

アピールポイント

児童会を中心に自分たちを振り返り、あいさつの声が小さいことが課題になった。児童会を中心に主体的に話し合い、元気なあいさつができるようになるための取組を考え、全校で取組を行った。自分たちで考えた取組として、児童は意欲的にあいさつ運動に取り組み、元気よくあいさつできるようになった。

実際の様子



取組の概要

■児童生徒の実態

明るく素直な子ども達である。小規模小学校で、進んで発言しなくても自分の思いを伝えることができるので、自分の考えを意欲的に発表することに課題がある。子ども達に課題を投げかけると、解決しようと一生懸命に取り組む事ができる。

■活動内容

始業前に、あいさつタスキをかけて、各学級を回って元気よくあいさつをする。6年生から順に、毎日1つの学年の児童が全員そろって学級を回っていく。低学年は児童会の児童と一緒に回る。教室の入り口で、当番全員がそろって大きな声であいさつをする。元気よくあいさつを返してくれた児童を、お昼の放送で紹介したり、児童朝礼で表彰したりしている。

■取組の参加メンバー

児童会を中心として、全校児童が学年単位で参加する。

■成果・効果

元気よくあいさつする習慣が徐々にできてきた。また、あいさつ運動をきっかけに、登校中に校門に立っている先生の姿が見えると、遠くからでも元気よくあいさつする児童が増えた。また、あいさつの声も大きくなってきた。